

2024年5月16日

第95回メーデー中央大会実行委員会
実行委員長 芳野友子殿

第95回連合中央メーデーに対する問題提起

全国コミュニティ・ユニオン連合会（全国ユニオン）
会長 鈴木剛（公印略）

天候も不安定な中、第95回連合中央メーデーを事故なく完了させた大会実行委員会に敬意を表します。その苦労を否定するものではありませんが、今回の第95回連合中央メーデーは、労働者の祭典にふさわしくないとみる点があると考え、問題提起をさせていただきます。

まず、式典会場の入場についてです。式典会場の入り口が混乱し、渋滞が発生しました。その原因は、式典への入場ゲートで手荷物チェックが行われ、それが終わると金属探知機で検査されるという異様な状況にあります。しかも、手荷物チェックは男性が女性の手荷物までチェックするなど、その在り方も大いに疑問です。

結局、私たちを含めて決して少なくない参加者が式典の開始時刻に入場できていませんでした。ベビーカーでの入場も禁止されていました。これは、人工芝となった会場の都合でしょうか。ジェンダー平等（※）の観点からもベビーカーが入場できるような措置は必須と考えます。

また、連合中央メーデーは、東京、島根、長崎の選挙区で補欠選挙の投開票日が行われる前日でした。岸田総理がメーデーに出席して発言している姿は、自民党の対立候補として選挙戦を闘う連合推薦の候補者とその候補者を支援する組合員にどう映ると考えたのでしょうか。また、選挙区の有権者にどう映ると考えたのでしょうか。とりわけ島根は保守大国と言われ、自民党と立憲民主党の一騎打ちという構図でした。当選できたことに安堵しましたが、選挙戦を闘っている候補者や支援者の苦労を思えば、メーデーという場で組合員に岸田首相のスピーチを聴かせるという選択肢など取れないはずです。そもそも労働者の祭典であるはずのメーデーに、自民党の総裁である総理を登壇させることに大きな不満と疑問があります。自民党などの保守政党の総理は、今後、登壇させないでください。

メーデーは働く者の祭典であって、働く者に開かれた場であるはずです。その主役は参加したひとりひとりの組合員であって、来賓ではありません。来賓の都合に合わせて、主役であるはずの組合員に負担を負わせるメーデーの在り方には明確に反対します。

連合中央メーデーは、間もなく100回を迎えます。時代に合わせて変わっていくこともあるでしょう。しかし、同時に変えてはいけないこともあるはずはです。今後の連合中央メーデーが、労働者の祭典に相応しくない方向に変質し兼ねないことを危惧します。だれのため、何のためのメーデーなのか、を再確認しその原点に立ち返る必要があると考え、問題提起をさせていただきました。

本件について、連合内でも議論していただき、来年以降の連合中央メーデーをより良いものとする一助としていただくよう求めます。

以上

※会場となった代々木公園ではメーデー中央大会の1週間前に東京レインボープライドが開催されました。連合はジェンダー平等を掲げつつ、子どもを連れた同性カップルが連合中央メーデーに参加することを想定していると思えないという指摘です。